

2021 年度 研究班 研究成果報告書

研究名	地域資源の活用方法に関する分析——グスク及び関連遺産群の事例
代表者名	石川公彦
分野／対象地域	経営学、地域マネジメント
研究期間	開始 2021 年 4 月 ～ 終了 2022 年 3 月 (1 年目 / 1 年間)
研究成果要約	グスク及び関連遺跡群の関係者へのインタビューとフィールド調査を中心とする本研究は、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて実施困難な状況が続き、研究予算を一切執行できずに終えることとなった。
研究組織	(研究代表者及び研究分担者) 所員 2 名、 特別研究員 0 名、 計 2 名
研究成果	<p>本研究の目的は、沖縄県の地域資源としてグスク及び関連遺産群（以下、グスク等）に注目し、各地のグスク等がどのように活用されているのかを事例分析することで、その同一性と相違性が生じる理由を明らかにすることにあつた。分析にあたっては、①どのような目的のもとに「ヒト、モノ、カネ、情報」の各要素が結集され、②どのようにマネジメントされ、③どのような効果をあげているのかを、個別事例ごとに具体的に明らかにする。続いて、①から③の項目に関して、事例間の比較分析を行い、地域資源を有効に活用するための一般ロジックを析出することをめざした。</p> <p>研究項目として以下の 3 項目を設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県内の各地のグスク等がどのように活用されているのかを明らかにするために、北部・中部・南部・離島の各エリアにおける代表的な事例を選出する。 2. 事例ごとに、①どのような目的のもとに「ヒト、モノ、カネ、情報」の各要素が結集され、②どのようにマネジメントされ、③どのような効果をあげているのかを、具体的に明らかにする。 3. 上記 2 で明らかになった内容を比較分析し、活用方法等の同一性と相違性が何によって生じるのか分析するとともに、地域資源を有効に活用するための一般ロジックを析出する。 <p>研究方法として以下 3 つを設定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献研究、ネット検索などによる事例の選出 2. 第一次資料の収集と分析、現地調査、関係者へのインタビュー調査による事例分析 3. 研究会を通じた分析結果の精査 <p>期待される成果として、以下の内容を設定した。すなわち、従来のまちづくり調査においては、地域特性に規定された地域資源を明らかにし、それがどのように活用されているかを明らかにするというアプローチが多くみられる。このアプローチの場合、各地域に固有の特性に規定された地域資源の事例が、まとまりなく選出される傾向を持つ。そのため、事例間の比較分析することに困難さをともなってきた。一方、本研究では、分析対象をグスク等という地域資源に統一することで、事例間の比較困難性を相当程度、克服し得ると期待できる。グスク等という、ある意味、「特殊」な地域資源に統一することで、むしろ、その活用にあたっての「一般」的なロジックを明らかにすることを意図する。そして、まずは 21 年度の成果として、各エリアの代表的なグスク等の活用事例を選出し、事例報告書を作成することとした。</p> <p>以上の研究計画にもとづき、第二次資料と第三次資料を活用した事前調査と事例選取を進めつつも、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、グスク及び関連遺跡群という沖縄固有の地域資源に係る関係者へのインタビューとフィールド調査の実施を控えざるを得ない状況が継続した。その結果、研究予算を一切執行できず、研究成果を得られないまま 21 年度の研究を終えることとなった。</p> <p>研究対象や研究方法の見直し、翌年度以降に実施することも考え得るが、新型コロナウ</p>

	<p>イルス感染症の影響によってグスク及び関連遺跡群への入場制限や利活用の制限が課されている状況下においては、本研究の主題である「地域資源の活用方法に関する分析」は限定されたものとならざるを得ないことから、研究方法と研究対象の見直しを図りつつ、新型コロナウイルス感染症の終息を待って改めて本研究の実施を期すこととしたい。</p>
<p>研究成果の 発表実績</p>	<p>なし。</p>